

科目名	薬理学2			ナンバリング	PHA151	授業形態	講義
対象学年	3	開講時期	前期	科目分類	必修	単位数	1単位
代表教員	林正彦	担当教員	林正彦○、松本司				

授業の概要	中枢神経の役割を理解し、中枢性疾患(パーキンソン病・てんかん・認知症などの変性性疾患、統合失調症・気分障害・不眠症・不眠)治療に用いる薬物の薬理作用、作用点、作用機序、相互作用等に関する知識を身につける事を目的とする。また、循環器系の役割を理解し、循環器疾患(高血圧症、虚血性心疾患、不整脈、心不全)治療に用いる薬物の薬理作用、作用点、作用機序、相互作用に関する知識を身につける事を目的とする。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 中枢疾患(てんかん、パーキンソン病、気分障害(うつ病・躁病)、アルツハイマー型認知症、統合失調症)ならびに麻酔薬・鎮痛薬について、薬理作用、作用機序、相互作用、使用上の注意などについて説明できる。 2 また、循環器疾患(高血圧症、心不全、虚血性心疾患(狭心症・心筋梗塞)、不整脈)治療薬について薬理作用、作用機序、相互作用、使用上の注意などについて説明できる。 						
学習のアドバイス (勉強方法、履修に必要な予備知識など)	<ol style="list-style-type: none"> 1 講義内では教科書の内容補足として、プリントを配布する。講義内容のまとめ方の参考にすること。 2 講義内容を復習できるよう演習問題を添付する。演習問題は、講義や自習で学習したことがどのような形で問われるか、どのように考えたらよいか、という問題解決力を養うためのものであるから、必ず自分で解答すること。 						
ディプロマポリシーとの 関連	【薬学部薬学科のディプロマポリシー】						
		1. 薬剤師の社会的義務を認識し、医療の担い手としてふさわしいヒューマニズムと倫理観を具現できる。					
	○	2. 医療分野における問題点を発見して解決するために、研究マインドと知識を統合・活用する力を有する。					
		3. 患者本位の医療を実施するために、チーム医療における円滑なコミュニケーションをとることができる。					
	○	4. 地域の医療および保健に貢献するために、薬剤師としての実践的能力を有する。					
	○	5. 薬剤師として科学と医療の進展に対応するために、生涯にわたって持続可能な主体的学習ができる。					

標準的な到達レベル(合格ライン)の目安	理想的な到達レベルの目安
<ol style="list-style-type: none"> 1 中枢疾患(てんかん、パーキンソン病、気分障害(うつ病・躁病)、認知症、統合失調症)治療薬ならびに麻酔薬・鎮痛薬を挙げ、その薬理作用、作用機序などについて説明できる。 2 循環器疾患(高血圧症、心不全、虚血性心疾患(狭心症・心筋梗塞)、不整脈)治療薬を挙げ、その薬理作用、作用機序について説明できる。 	<ol style="list-style-type: none"> 1 中枢疾患(てんかん、パーキンソン病、気分障害(うつ病・躁病)、型認知症、統合失調症)治療薬ならびに麻酔薬・鎮痛薬について、薬理作用、作用機序、構造式、相互作用、使用上の注意などについて説明できる。 2 循環器疾患(高血圧症、心不全、虚血性心疾患(狭心症・心筋梗塞)、不整脈)治療薬について薬理作用、作用機序、構造式、相互作用、使用上の注意などについて説明できる。

成績評価観点	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合
定期試験(中間・期末試験)	○	○					90%
小テスト・授業内レポート	○	○					10%
宿題・授業外レポート	○	○					加点はしない。提出しなければ減点。
授業態度・授業への参加							

課題、評価のフィードバック	講義中もしくは講義前に、前回講義内容に関する小テストを行う。テスト結果は採点・解説し、学習支援システムmanabにて開示する。解答用紙は、要請があればいつでも開示できるよう準備している。
---------------	---

	回次	テーマ	授業内容	備考
授業計画	第1回	中枢神経の薬理①(脳血管治療薬)	脳梗塞や脳内出血、クモ膜下出血の概要を示し、抗凝固剤や血栓溶解薬、抗血小板薬の薬理作用、作用機序について解説する。講義で使用する資料やプリントを「学修支援システム」に保存しているので持参すること。	SBO:E2-(1)-③-3 (担当:林)
	第2回	中枢神経の薬理②(抗てんかん薬)	てんかんの発症機序を示し、抗てんかん薬の薬理作用、作用機序について解説する。講義で使用する資料やプリントを「学修支援システム」に保存しているので持参すること。	SBO:E2-(1)-③-7 (担当:林)
	第3回	中枢神経の薬理③(パーキンソン病薬)	パーキンソン病の発症機序を示し、パーキンソン病薬の薬理作用、作用機序を解説する。講義で使用する資料やプリントを「学修支援システム」に保存しているので持参すること。	SBO:E2-(1)-③-9 (担当:林)
	第4回	中枢神経の薬理④(気分障害治療薬)	気分障害の症状や概要を示し、気分障害治療薬の薬理作用、作用機序について解説する。講義で使用する資料やプリントを「学修支援システム」に保存しているので持参すること。	SBO:E2-(1)-③-5 (担当:林)
	第5回	中枢神経の薬理⑤(抗精神病薬)	統合失調症の症状や概要を示し、抗精神病薬の薬理作用、作用機序について解説する。講義で使用する資料やプリントを「学修支援システム」に保存しているので持参すること。	SBO:E2-(1)-③-4 (担当:林)
	第6回	中枢神経の薬理⑥(抗認知症薬・脳循環代謝改善薬)	認知症の症状や概要を示し、抗認知症薬・脳循環代謝改善薬の薬理作用、作用機序について解説する。講義で使用する資料やプリントを「学修支援システム」に保存しているので持参すること。	SBO:E2-(1)-③-10 (担当:林)
	第7回	中枢神経の薬理⑦(催眠薬・抗不安薬)	睡眠障害や不安の症状や概要を示し、催眠薬・抗不安薬の薬理作用、作用機序について解説する。講義で使用する資料やプリントを「学修支援システム」に保存しているので持参すること。	SBO:E2-(1)-③-6 (担当:林)
	第8回	中枢神経の薬理⑧(麻薬性鎮痛薬・麻薬拮抗薬)	鎮痛薬の意義を示し、麻薬性鎮痛薬・麻薬拮抗薬の薬理作用、作用機序について解説する。講義で使用する資料やプリントを「学修支援システム」に保存しているので持参すること。	SBO:E2-(1)-③-2 (担当:林)
	第9回	まとめ 中間試験	第1回から第8回までの講義内容に対する理解度の確認試験を行う。	(担当:林)
	第10回	循環器作用薬①(高血圧治療薬①)	高血圧症の症状や概要を示し、血圧調節機構について説明し、Ca拮抗薬、 α β 遮断薬の薬理作用、作用機序について解説する。講義で使用する資料やプリントを「学修支援システム」に保存しているので持参すること。	SBO:E2-(3)-①-4 (担当:松本)
	第11回	循環器作用薬②(高血圧治療薬②)	ACE阻害薬、アジオテンシン受容体遮断薬、抗レニン薬の薬理作用、作用機序について解説する。講義で使用する資料やプリントを「学修支援システム」に保存しているので持参すること。	SBO:E2-(3)-①-4 (担当:松本)
	第12回	循環器作用薬③(心不全治療薬・強心薬)	心不全の分類や、心不全治療薬の薬理作用、作用機序について解説する。講義で使用する資料やプリントを「学修支援システム」に保存しているので持参すること。	SBO:E2-(3)-①-2 (担当:松本)
	第13回	循環器作用薬④(狭心症薬)	狭心症の発症機序や症状を示し、狭心症治療薬の薬理作用、作用機序について解説する。講義で使用する資料やプリントを「学修支援システム」に保存しているので持参すること。	SBO:E2-(3)-①-3 (担当:松本)
	第14回	循環器作用薬⑤(心筋梗塞)	心筋梗塞の発症機序や症状を示し、抗凝固剤や血栓溶解薬、抗血小板薬の薬理作用、作用機序について解説する。講義で使用する資料やプリントを「学修支援システム」に保存しているので持参すること。	SBO:E2-(3)-①-3 SBO:E2-(3)-①-5 (担当:松本)
	第15回	循環器作用薬⑥(抗不整脈薬)	不整脈の発症機序を示し、不整脈治療薬の薬理作用、作用機序について解説する。講義で使用する資料やプリントを「学修支援システム」に保存しているので持参すること。	SBO:E2-(3)-①-1 (担当:松本)
	試験	講義毎の小テスト、中間試験ならびに期末試験を実施する。中間試験は第8回までの講義内容で、期末試験は全範囲を対象に実施する。配布している演習問題ならびに講義プリントを参照すること。60点未満の不合格者は、再度復習して再試験に備えること。再試験は全範囲を対象とし、それ以後の試験は実施しない。		
授業の進め方	講義とそれに対する質疑応答とする。講義では教科書の内容補足として、プリントを配布するので講義内容のまとめ方の参考にすること。講義内容の復習のため演習問題を添付する。			
授業外学習の指示	講義を聴いただけで理解したつもりにならないこと。配付資料、特に治療薬マップや作用機序は、配付資料を見ないで書けるようになること。添付している演習問題をその日のうちに解くこと。出来なかったところはその日のうちに調べる。継続して学習することが重要であり、見ただけで理解したつもりにならないようにすること。 (授業外学習時間: 毎週 120 分)			

教科書	パートナー薬理学 改訂第2版(重信弘毅、石井邦雄、南江道)6,300円 ISBN978-4-524-40297-7 C3047
参考書	参考書:はじめの一步のイラスト薬理学(石井邦雄著、羊土社)2,900円 ISBN978-4-7581-2045-6 C3047 図解薬理学(鍋島俊隆、井上和秀、南山堂)8800円 ISBN978-4-525-72061-2
参考URLなど	薬理学は薬物治療、臨床への基礎となる重要な科目ですので、予習復習を実践し理解を深めること。
その他	5. 基礎的な科学力、8. 研究能力 アドバンスト5%、大学独自10%